

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画

初回の利用開始前に情報の共有だけでなく、どう対応していくのかを話し合う機会をもっと作っていく。細かい部分は難しいかもしれないが、ある程度の対応の方法や方向性についてスタッフ間で共通認識を持ち、対応や支援に活かせるようにしていきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

今年度は新規の利用者の受け入れが少なかったことから、評価しにくい部分はある。ただその中でも、利用前にはケアマネジャーと管理者が本人の必要な情報について数回、情報収集する場を設け、その内容についてスタッフと情報共有している。ただ、スタッフによっては細かく確認できていない事や、意識の差もあり、意識したかかわりや対応が不十分なことがある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	2	4			6
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?		6			6
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?		6			6
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?		6			6

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①利用前に複数回、面談等をし、家族や本人から利用者の情報を収集し、フェースシート等の記録を活用し開始前に分かる情報は共有している。不足の分は、利用中の情報などや追々聞き出しケースに記録をする事で、スタッフ間で補っていくようにしている。②本人や家族が、現在困っていることや必要としていることを確認し、それを最優先に考え、個々にあった利用方法やサービス、ケア等を提供している。ケアの提供後は、記録に残し、次の支援につなげている。また都度、家族や本人の声を聴き、臨機応変に対応している。③慣れていない時期は、本人が不安にならないように声をかけたり、無理強いしないように対応している。通いサービスに導くために、訪問からはじめたり体験利用をし様子を見たりと個々によって工夫をしている。また、ケアマネジャーや管理者が初回のスタッフには同行し、家族や本人に紹介し、そこからスタッフへ任せ等配慮もしている。④送迎時や連絡帳、電話やメールを活用し、家族への報告をこまめにおこなっている。情報共有することで、不安を少しでも解消できるよう、日々努めている。また、家族等が困っていること等、早急な改善や対応ができるよう努めている。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①生活面や習慣、馴染み等に関しても情報収集しているが、支援に活かせていないこと、また情報共有だけで終わっている部分もある。利用者やスタッフにも不安がある為、もっとその情報を元にどう対応していくのか話し合いをし、さらに情報共有していく必要がある。②認知症で自分の想いを伝えられない方等は、家族のニーズ中心になっている部分があり、また本人が必要な事、家族が必要な事が全て一致する事はない。そのため、優先的な支援のあり方が家族のニーズ中心になっていることもある。ただ、在宅生活を支える為には、家族のニーズも支援していかないと難しいので、見極め、調整していく必要がある。③利用前に情報を共有しているが、関わり方に対してスタッフ間でまとまっていないことがある。①～④共通して、慣れていないときこそ、十分に情報共有が必要である。スタッフによっても意識の差がある為、個々のスタッフも利用後の情報収集をし、他の職員と共有や意見交換をし意識を高めることが必要である。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

急な利用の場合は事前の情報収集が不十分になってしまうこともあるが、引き続き可能な限り利用前に複数回、面談やアセスメントをする機会を設けて、利用者や家族・スタッフが互いに少しでも安心して関わられるようにしていきたい。また、利用者の状況に合わせて、訪問から慣れていただいたり体験も上手く活用していきたい。利用後はスタッフ間で情報共有できるように細かく記録し、ミーティングやカンファレンスにて情報交換や関わり方等について話し合う機会を増やしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
2.「～したい」の実現 (自己実現の尊重)	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画

引き続き、本人の目標や意向については、ケアマネジャーと利用者の担当者が中心となり、日常の会話やモニタリング・サービス担当者会議にて声を拾っていき、少しでも利用者の目標や意向に近づけるようにしていきたい。また、実践した事でも何でも、振り返りや話をできていないことも多く、次の対応に活かせていないこともあるので、振り返りができるよう、話をする機会を増やしていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

本人の意向や目標については、管理者・ケアマネジャーが中心となりモニタリングや担当者会議にて確認したり、全職員が日々の関わりの中で、情報を得るようにしている。その中で、ケアプランを作成し目標や意向に近づけるように取り組んでいる。ただ、スタッフ間での話し合いや振り返りは不十分である為、次の対応に活かせていないこともある。スタッフが全利用者を把握するのは難しいかもしれないが、最低限、個々のスタッフは担当の利用者について意識して見と見えていき、意見交換をする事で、さらによりよいケアや利用者の自己実現につながると思われる。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		6			6
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		6			6
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?		5	1		6
④	実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かせていますか?		2	4		6

できている点

200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

①②本人や家族との話や日々の関わりを元にケアプランを作成し、ケアプランにて目標を明確にしており、そのケアプランの内容は全スタッフが確認できる状態である。また担当者会議に本人や家族も参加するよう促し、参加できない場合も意見をもらうようにしている。利用者のその時々にあった想いやケアの内容を理解し対応している。③利用者から「～したい」という目標や希望はなかなか言葉ででてこないこともあるが、でてくればできる限りの対応やかかわりしている。また、その人の習慣や行動から、「～したい」を考えながら、少しでも近づくように、日々関わりや支援をするよう努めている。④利用者個々によって、まだまだ活かしている人、活かしていない人というが、各担当を中心に問題点や疑問点等、スタッフ間で情報交換し、ミーティングやカンファレンスにて必要なことは話し合っている。

できていない点

200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

①～③ 利用者によってできている人、できていない人というのが現状である。利用者によっても声を発する方はわかりやすいが、本人の意向が掴みにくい方もいるのが現状である。また、目先の課題や問題点へのアプローチが先になってしまったり、日々の業務や利用者の対応に追われていることもあり出来ていないこともある。④実践した事でも何でも、振り返りや話をできているかという点においては出来ていないこともある。都度、振り返りができていないため、次の対応も、個々のスタッフの判断になってしまっていることがある。話し合う場を作るのはもちろん大切だが、個々のスタッフが担当の利用者をもっと意識してみても関わり、ミーティング等で意見や情報を発信することで、より良いケアや対応にも変化が出ると思われる。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

各利用者担当のスタッフによって意識の差があるのが現状である。担当スタッフが個々の利用者のケアプランを意識して日々関わり、利用者がどういった想いなのかを日々確認していく。その中で他のスタッフと情報交換し、ケアや関わりを見直すためにも、ミーティング等で少しでも情報を発信し、ケアの振り返りをする機会を増やしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
3. 日常生活の支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1人	5人	人	人	6人

前回の改善計画

まだまだ自宅と施設利用時とを連動して考えられていない部分がある。介護度が高くなってきたり認知症の進行があると、家族の希望で通いサービスや泊りのサービスで対応することが増えるが、少しでも自宅で過ごす時間が増えるよう、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていきたい。そのためにも、本人との日常の会話や家族から情報を聞き、生活環境をより理解できるようにしていきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

介護度が高くなったり認知症の進行があると、家族の希望や負担軽減で、通いや泊りの利用が増えるため難しいが、今後も引き続き、本人の自宅での暮らしや生活パターンを知ることで少しでも自宅で過ごせるよう考えていきたい。また、自宅とホーム利用時を連動して考えられていないこともあり、ホームに来る事で、過介助になってしまっていることがある。さらに本人を知り、在宅生活をベースに考えて支援していく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		2	4		6
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	1	5			6
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		6			6
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	1	5			6
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		6			6

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

①フェースシート・ケース記録・モニタリング等の本人・家族・スタッフ間の情報にて生活環境を理解出来ていることもある。②極力、本人のペースに合わせながら、無理強いせず、かめやん家に対応可能な介護の提供は工夫しながら対応できている。また、本人の日々の状況や体調に応じて対応をかえたりスタッフ間で話をし都度見直しをしている。③本人の表情や行動、しぐさ等により感じ取った本人の状態について、スタッフで気づいたことは共有し話し合いをしている。④日々、利用者を観察し、本人の気持ちや体調の変化に気づくよう関わり、スタッフ間で情報共有している。必要に応じて家族や看護師、医師等へも相談し、都度対応している。⑤その時々本人の状況に合わせて、気分転換の為に外出へ誘ったり、体調が優れない時は、泊まりサービスにて対応する等、関わりやサービスを臨機応変に対応している。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

①アセスメントシフェースシートやケースに記録はしているが、それが全てではなく、まだまだ知らないことも多い。生活習慣を10個以上と言われると把握できていない方もいるのが現状である。②～⑤その都度、即時的には完璧には出来ていないこともある。個々のスタッフの経験や気づきにも差があり、個々のスタッフの利用者への捉えかたの違いやスタッフ間での話し合いが不十分こともある。本人の在宅での生活がホームへ来る事で、過介助になりすぎていることがある。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

まだまだ各利用者の自宅での生活習慣を理解や把握できていない部分がある。各利用者をより知る為にも、興味を持って日々意識した関わりをしていく。また在宅での生活とホームでの生活が連動するためにも、スタッフ間でもっと話し合う機会を増やし、家族とも連携を図り日常生活の支援につなげていきたい。過介助や過剰なサービスにならないよう、都度、情報収集していきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
4. 地域での暮らしの支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画

3と同様、まだまだ自宅と施設利用時とを連動して考えていない部分があり、家族の希望等で通いサービスや泊りのサービスで対応することが増えているが、少しでも自宅で過ごす時間が増えるよう、訪問サービスを最大限に活用し、自宅での生活を支援、アプローチできるようにしていきたい。そのためにも、本人との日常の会話や家族から情報を聞き、自宅での過ごし方や生活スタイル、地域との関係性等をより理解できるようにしていきたい。

前回の改善計画に対する取組み結果

3と同様に介護度が高くなったり認知症の進行があると、家族の希望や負担軽減で、通いや泊りの利用が増えるため難しいが、今後も引き続き、本人の自宅での暮らしや生活パターンを知ることで少しでも自宅で過ごせるよう考えていきたい。また全てではないが、モニタリング等でケアマネジャーや管理者が家族や本人から得た情報を記録し、スタッフ間に周知する事で理解できていることもある。さらに知り得た情報を元に、在宅や地域で暮らすための支援に活かせるように今後も取り組んでいく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		6			6
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		6			6
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		4	2		6
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		1	5		6

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

①全てにおいて理解や把握はできていないこともあるが、モニタリングや送迎時、日々の関わりの中で、家族や利用者とは話し、得た情報をもとに理解はできている部分もある。②利用者により地域との関わりは差はあるが、ホームで抱えこまないように、家族に任せれるところは任せたりと対応している。行事の参加を促したり、地域の方とは、つどいや地域の喫茶やサロン等の行事により関わることができている。自身でも地域の行事や百歳体操等に参加されている方もいる。③訪問の対応が必要な方は、自宅での生活がある程度見えており把握している部分や本人や家族との会話の中から得ることができている。モニタリングの内容を細かく記録し、スタッフが閲覧できるようにしており以前より自宅での様子がわかるようにはなっている。④地域の病院や薬局、訪問理美容等のサービスを活用していたり、地域住民の協力等で利用者を支えたりとしている部分もある。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

①在宅が基本であるにも関わらず、ホームでの利用に対応したケアや支援をできていないこともある。②ホームから遠い方ほど、本人の地域での活動が把握できておらず支援できていないことも多い。利用者によっては、かめやん家での生活が中心となってしまっている方もおられ、ホームで抱え込んでしまっている部分もある。③実際に利用者が自宅での過ごし方、自宅での様子が見えにくい方もいる。利用者によっては家族からの情報でしかほとんど知ることができなく、どのように自宅で過ごしているのか生活スタイル等わからない方もいる。そのため、もっと家族から情報を得られるようにしていきたい。④ホーム長は把握できている部分はあるかもしれないが、現場のスタッフ間では関わる機会が少ないこともあり、本人の各地域の民生委員や地域資源等の理解や把握はできていないこともある。ただ、その地域に本人が暮らしているという事をもっと認識しないといけなく、それを意識すればさらに地域と連動できる部分はあられると思われる。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

利用者一人一人の地域も異なり、それぞれの今までの地域との関わりもある為、地域での暮らしに目を向けていくのは難しいが、その地域に利用者本人が暮らしているという事をスタッフをもっと認識し、意識する事で変わる部分もあると思われる。少しでも地域と連動して個々の在宅生活に必要な支援をするためにも、家族からの情報や元気づけに本人との会話の中からでも自宅での過ごし方、地域や友人とどう関わりがあるのかを情報収集し把握していきたい。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
5. 多機能性ある柔軟な支援	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	本人と地域の元々の関わりを知り、地域や家族にも協力していただけるよう、ともに支えることができるよう、アプローチをしていく。また、利用者の大きな変化や目立つ行動だけでなく、小さな変化等に対しても話し合いが不十分な事もあり共有できていないので、もっと、スタッフ間で話し合いをしていく必要がある。
---------	---

前回の改善計画に対する取組み結果	本人や家族からの情報で地域とのかかわりを知ることができ、利用者によっては支援に活かしている方もいる。利用者の変化に対しては大きなことや目立つことに関しては話し合いをする事ができている。日々の業務もあり、また月に1回のミーティングの為、小さな変化についてや細かな部分までは話し合いはできていない。
------------------	---

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?		6			6
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	2	4			6
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	1	5			6
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	1	5			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①かかりつけ医やリハビリ等の医療機関、訪問看護、薬剤師、訪問歯科、訪問理美容、福祉用具等を活用し在宅生活の継続を支えている。直接的な介護は、ホームが担う形になっているが、ご近所や家族の協力を引き出すよう働きかけている方もいる。利用者によって地域の行事や百歳体操に参加したり地域住民の協力等で地域資源を活用している方もいる。②利用者や家族と話しをし、ニーズに応じてその人に合った「通い」「訪問」「泊まり」等の利用方法が妥当に提供出来ていると思う。③ミーティングや申し送り、カンファレンス、日々の記録等にて、スタッフ間で情報共有している。④出来る限りは行っている。本人の状態により、家族や本人と相談しながら、急な利用や通院対応、利用の変更にも対応し、その時々にあわせて、可能な限り柔軟に対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①医療機関や薬剤師、福祉用具等のサービス以外のボランティアや近隣住民、友人、町会、地域の自主事業等の、他の資源の活用ができていないことが利用者によってはある。②本来であれば、もっと本人の意向や希望に沿った対応が望ましいが、家族の意向やホームの都合も考慮したサービスの提供になってしまっている部分もある。たとえば、本人はもっと自宅にいたいのに、家族のニーズから訪問サービスではなく通いサービスや泊まりサービスを提供していたりとする。③大きな変化や目立つ行動などは話し合いをし共有できているが、小さな事や変化に対しては話し合いが不十分であり共有できていないこともある。④利用者によっては本人のニーズが家族のニーズが分からなくなっていたり、家族のニーズに合わせた支援になっている方もいる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
家族のニーズもあり、利用者によっては過剰なサービスになっている部分もある。本人の状況や在宅での生活を、都度アセスメントし、適切にサービスを提供できるようにしていく。また、自分たちだけでなく、家族も含め地域の協力や他のサービスも可能な限り利用し、個々の支援に活かしていきたい。また、利用者の大きな変化や目立つ行動だけでなく、小さな変化や細かな部分まで話し合いができていないため、もっと話し合う機会を増やし早急な対応を心がけていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
6. 連携・協働	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか？	人	6 人	人	人	6 人

前回の改善計画

昨年度に引き続き、事業所のスタッフ以外の担当者を交えて、サービス担当者会議を開催できるようアプローチし、様々な視点から利用者を支援できるよう意見交換する機会を作っていく。運営推進会議においては、スタッフがなかなか参加する事ができていないため、シフトを調整し、スタッフが参加する機会を増やしていく。また、職場体験も引き続き、中学校と連携し継続していきたい。つどいや職場体験を通じて地域住民にかめやん家や福祉に興味を持っていただく機会を作っていく。

前回の改善計画に対する取組み結果

サービス担当者会議を実施しており事業所以外の担当の方にも可能な限り参加して頂いている。今年度は薬剤師の方にもアプローチし参加して頂く事ができた。ただ医師の参加は難しく照会にて意見を頂いている。運営推進会議にスタッフが参加する事はシフトの兼ね合いもあり難しいが、細かく資料や議事録を作成し回覧している。今年度は職業体験は、中学校の都合で受け入れはなかった。つどいや地域の行事等を通じて地域住民とも連携を図れるようになっている。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか？		6			6
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？	1	1	4		6
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか？		6			6
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	5			6

できている点

200字程度で、できていること、その理由を記入すること

①少しずつではあるが、医師や看護師、福祉用具の担当者等にも参加を促し、開催することが出来ている。出席できない時には、照会にて意見をいただいている。今年度は薬剤師の参加歯科等には、薬の変更時や必要に応じて、随時、意見をいただいている。②ホーム長中心に町会の会議や防災会議等に参加するようにしている。防災についての会議へは防災担当スタッフも参加する機会が増えている。③地域開催の避難訓練や防災等の取り組み、夜警への参加。保育園児との交流会の開催、小学校の行事、地域のふれあいサロン・喫茶等の交流の場に参加している。④定期的にかめやん家のつどいを開催し、近隣の住民が参加している。また、日頃の挨拶だけでなく言葉のやりとりもあり良い雰囲気づくりや交流ができています。保育園や小学校の行事等への参加もしている。中学校の職場体験の受け入れも実施している。

できていない点

200字程度で、できていないこと、その理由を記入すること

①医師の参加は難しいことが多く、照会にて意見をいただいている。また他のサービス機関や担当者でも日程が合わないときは照会にて意見をいただいている。②シフトの都合や日常の業務等もあり、スタッフの参加や複数の参加は難しいことが多く、ホーム長だけの参加になってしまうことがある。③出来る限りは参加しているが、スタッフの人数、ホームの利用者の対応や行事等の予定等があり参加できないこともある。④つどい等で高齢者は来る事が多くなっている。中学校の職場体験で事業所にきたり、ホームから小学校や保育園の行事に参加する事はある。ただ地域の子どもも少なくなっており、日常的に子ども達がかめやん家にくることは難しい。

次回までの具体的な改善計画

(200字以内)

昨年に引き続き、地域との会議や運営推進会議、外部の連絡会等に管理者以外のスタッフが参加できていないため、可能な限りシフト調整し、スタッフが参加する機会を増やしていく。サービス担当者会議は事業所以外の担当の方や本人に関わる様々な方に参加してもらえるよう、引き続きアプローチしていく。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
7. 運営	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6 人	人	人	6 人

前回の改善計画	引き続き、管理者を中心に意見や声を出しやすい環境を作っていく。ミーティングや様々な会議等でも意見を言いやすいよう進めかたも工夫し、スタッフや家族・利用者・地域から出た意見を運営に反映し、開かれた施設を目指していく。スタッフ間でボランティアへの理解がまだまだ低いので、理解を深める事ができるよう勉強会等を実施し、ボランティアの受け入れに繋げていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	ミーティング等でスタッフへ意見を求めたり、勉強会の進め方も工夫し、担当者以外も話をしたり意見を出したりできるよう参加型の内容にするよう取り組んでいる。つどい等から地域の方の出入りも増えている。直接、地域の方から意見が出る事は少ないが、運営推進会議等で出た意見は参考にし開かれた施設を目指している。スタッフへポイント事業の説明をしボランティアの受け入れもしているが、スタッフ間でのボランティアの知識や理解はまだ低いのが現状である。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができますか?		5	1		6
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?		6			6
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?		6			6
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	5			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①日頃よりコミュニケーションをとり、情報や意見を交換し、その都度、日常的にもホーム長へ相談し、またミーティング等で意見を出すことができている。②苦情や意見は、ホーム長を通じて、すぐに当事者に確認し対応している。③地域の方からの意見や苦情等、都度、早急に対応している。④毎月、かめやん家のつどいを開催し、「防災について」「栄養について」「介護保険について」「口腔ケア」等の講座の実施や物づくり、催し物を開催している。また、AEDの設置や福祉避難所の協定(行政、町会、施設間の三者協定)を結んでいる。ホーム長とスタッフが町会の防災リーダーとして会議の出席や夜警、訓練等、都度、参加をしたり、ホームの避難訓練にも地域の方に協力いただいている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①まだまだ先輩、後輩、新人、ベテラン職員に限らず、日常業務やミーティング等で意見を出しやすい雰囲気や環境作りは必要である。②③この1年くらいは苦情に関してはなかったので評価しにくい部分はあるが、頂いた意見はホーム長・ケアマネジャーが窓口となり対応し、報告書やケースへ記録し情報共有している。苦情についてスタッフ間での話し合いができていないこともあり、スタッフが利用者から言われたことを苦情として受け止めておらず認識が甘く見過ごしてしまっていることはある。④ポイント事業にてボランティアの受け入れはしているが、まだまだボランティアへの理解や知識は不十分である。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
ボランティアの受け入れはしているが、まだまだ知識や理解は不十分なので、勉強会をし理解を深めていく。管理者やケアマネジャーを中心に、日常業務やミーティング時に全てのスタッフが意見や提案しやすい雰囲気や環境を作っていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
8. 質を向上するための取組み	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	職場内研修については、ただ出席するだけでなく、それぞれが自分の意見や考えを言えるような雰囲気作りを目指し、より内容のある勉強会にしていきたい。外部研修も、スタッフのシフト上、参加出来ないこともあるが、シフトの調整をし参加できるようにしたい。参加したスタッフはホームにて伝達研修を行い、施設としての理解へ結びつけ新たな取り組み等に活かしていきたい。ヒヤリハットについては、毎月集計し、月に1回は話し合える場を作り、今後の対応や大きな事故につながらないように取り組んでいるが、その時だけになり継続できていない事もある為、都度話し合い、見直しや検証をして、よりよいケアにつなげていきたい。
---------	---

前回の改善計画に対する取組み結果	職場内研修の進め方も工夫して、全スタッフが参加型になるような形式に変更している。外部研修はシフトの兼ね合いで難しい事もあるが、できるだけ参加し、参加後は伝達研修をしたり、研修資料を回覧したりとしている。そこからの新たな取り組みにはつながっていないことも多いが、再度、確認しあったりとできていることもある。ヒヤリハットについては、個々のスタッフで意識の差があり、同じ事柄をみてもヒヤッとしたりハッとしたりとしない事もあるので、都度、大きな事故にならないようスタッフ間で話し合いやケアの見直しをしく必要がある。
------------------	---

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	2	4			6
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加していますか		5	1		6
③ 地域連絡会に参加していますか		5		1	6
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	1	5			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①②二ヶ月に1回、職場内で研修を実施している。それ以外にも必要に応じて実施することがあり、また、外部の講師(訪問看護、薬剤師)を招き実施することもある。外部の研修にスタッフが参加したら、参加後は、職場内にて伝達研修を実施している。法人として資格取得の為の勉強会も開催している。③ホーム長、防災担当のスタッフが地域の防災の集りに参加している。他の施設との連絡会へはホーム長が参加し必要な情報はスタッフへ伝えている。④担当者を置き、ヒヤリハットや事故についてまとめたものを、月1回定期的に話し合いを実施している。また、事故についても、都度、検証して対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①職場外研修はスタッフの人員上、行けなかったり、複数の参加は難しい。②距離やシフトの都合もあり法人の資格取得の為の勉強会には参加できていない。個々のスタッフ間で資格取得の為の勉強をしている。③なかなか複数の参加が難しくホーム長が参加していることが多く、スタッフの参加はできていないことも多い。④毎月1回、ミーティングにてヒヤリハットの検証をしているが、スタッフ間によって意識や危機感にも差があり、また、その時だけになり継続できていないこともあり不十分なところもある。また、スタッフによっても同じ事柄をみてもヒヤッとしたりハッとしたりとしない事もあるので、都度、大きな事故にならないようスタッフ間で話し合いやケアの見直しをしく必要がある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
外部研修については、できる限りシフトを調整し、スタッフが参加できる体制を作していきたい。また、研修の案内があれば周知し、各スタッフがどういった研修や学びに興味があるのかを把握し参加できるようにしていきたい。ヒヤリハットや事故については、個々のスタッフで意識の差がまだまだある為、スタッフ間で話し合いやケアの見直しを行い、その時だけにならないよう継続していく。またスタッフ間で意見交換をする事で個々の意識を高めていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和1年12月21日
9. 人権・プライバシー	メンバー	中川佑治 小池愛 若松健司 一色京子 中西暢久 石倉美生 小原ゆかり 大塚奈美子

◆ 前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目集計欄		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	6人	人	人	6人

前回の改善計画	引き続き、スタッフの言動や行動が利用者に影響を及ぼすことを理解し、対応することや、勉強会を実施し、スタッフ間での介護や対応を振り返り、不適切ケアを減らしていきたい。スタッフ間での会話等も周囲に配慮できていないことがあるので、意識していく。まだまだ利用者のケースを出しっぱなしにしている事もあるため、スタッフ間で注意し減らしていきたい。
前回の改善計画に対する取組み結果	まだまだケース記録を出しっぱなしにしていたりとする事がある。また、フロア内のスタッフ間の会話や声かけが他の利用者に聴こえることがあったり配慮が足りていない事がある。スタッフが忙しくなったり、認知症の方の同じ訴えの対応に対して、言い方がきつくなってしまうことがある。もっとスタッフが認知症の理解や対応について、勉強し振り返りをしていく必要がある。

◆ 今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目		よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	6				6
②	虐待は行われていない	6				6
③	プライバシーが守られている		6			6
④	必要な方に成年後見制度を活用している	1	5			6
⑤	適正な個人情報の管理ができている	1	5			6

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
①②基本的に身体拘束、不適切ケアや虐待等についての意識はしっかりとっており、身体拘束や虐待のないケアを行なっている。どうしてもセンサーマットが必要な時はスタッフや家族と相談し、理解を得てから対応している。スピーチロック等の不適切ケアについても研修を通じてスタッフ間で話し合いをし理解を深めている。③トイレ等は、本人に合わせ、羞恥心などに配慮し声かけしている。入浴時は同姓介助で対応している。④現在活用している方はいない。⑤個人のケースや保険証等の個人情報は事務所の鍵つきの棚にて保管している。名前の記載している書類や薬袋はシュレッダーにかける等、対応している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
①②利用者が危険と感じた時やスタッフが忙しくなっているときに、時折、「ちょっと待って。」「座ってて」等のスピーチロックが出てしまうこともある。まだまだ認知症に対する理解不足の面もあり、利用者の言動や行動に対して、言い方がきつくなってしまうこともある。③⑤フロア内でスタッフの声かけやスタッフ間の申し送りや何気ない会話が他の利用者に聴こえてしまっている事やさりげない対応ができておらず、配慮が足りていないことがある。ケース類を使用した際、なおすべき所にしまわずフロア等に出しっぱなしになってしまっていることが、時折みられている。④家族がいる方は、どこまで必要なか判断が難しいこともある。また、一部のスタッフは成年後見制度を理解しており、説明できるが、理解しておらず説明ができないスタッフもいる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
引き続き、虐待や不適切ケアにならないよう、勉強会を定期的実施する。認知症についても理解を深める事ができるよう勉強会を実施し、自分たちのケアや関わりを振り返り検証していきたい。業務や利用者の対応で忙しいことはあるが、利用者から声をかけやすい雰囲気や環境作りをしていきたい。また、適切に利用できるよう成年後見制度の勉強や個人情報についても勉強する機会を作っていく。	